

～自動車解体による再生資源の積極的な活用の取組みと課題～

株式会社エコアール 代表取締役社長
(一般社団法人 日本自動車リサイクル機構 副代表理事)
石井 浩道

目次

1. エコアール 会社概要
2. 直近のリサイクル業概要
3. 自動車解体による再生資源の積極的な活用の取組みと課題
4. 今後の目標

1. エコアール 会社概要



Company

会社概要

私たちは、地球にやさしい自動車リサイクルを通して社会に貢献します。

会社名 株式会社エコアール

代表者 代表取締役社長 石井 浩道

所在地

- ・本社 栃木県足利市久保田町838-1
- ・第一工場 栃木県足利市久保田町840-1
- ・第二工場・第三工場 栃木県足利市久保田町880-1
(店舗エコアールDS館含む)

※総敷地面積 57,710㎡ (17,487坪)

創業 1964年12月1日

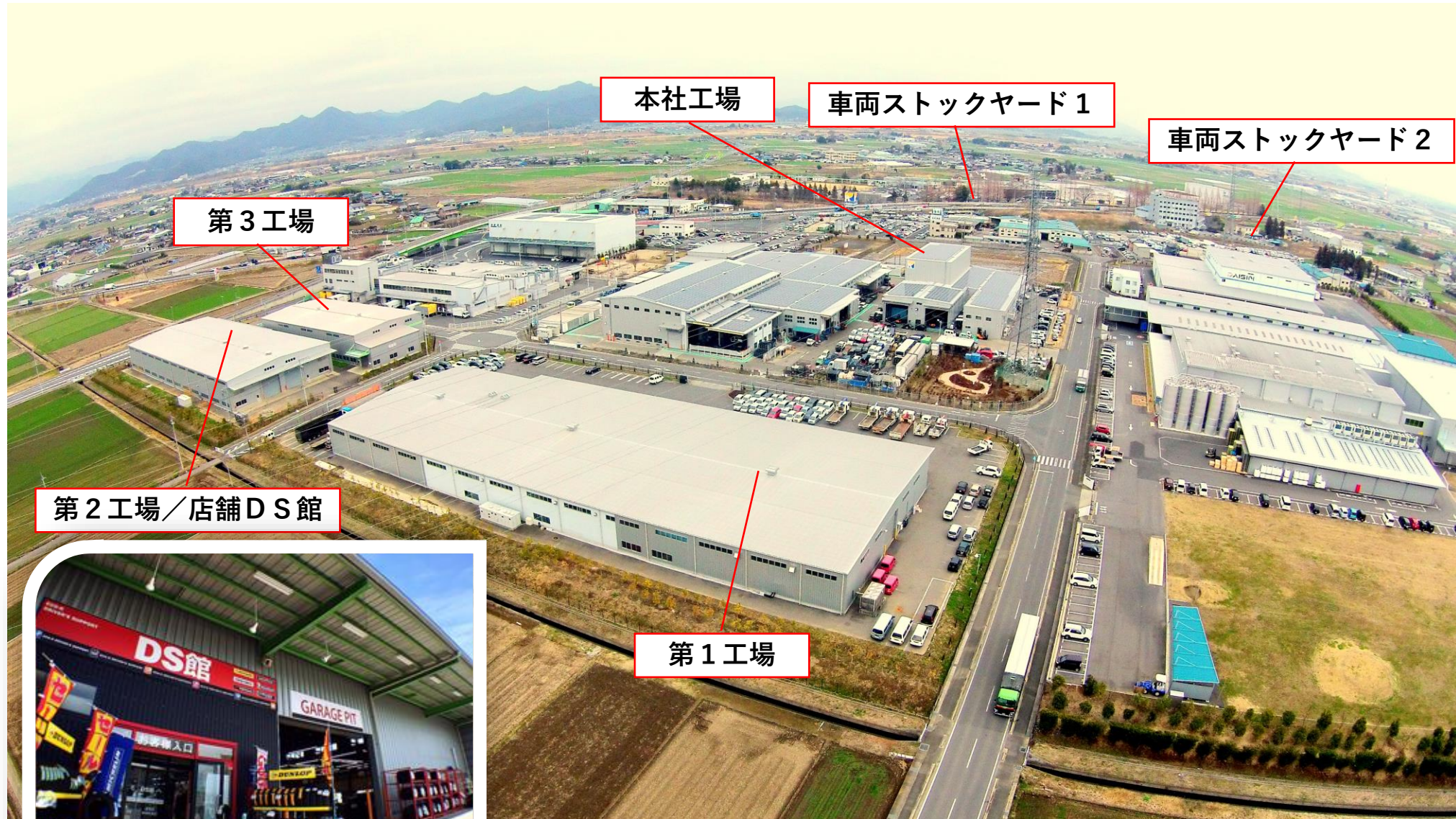
事業内容

- 自動車解体業：使用済み自動車の適正処理
- 産業廃棄物収集運搬業・処分業：廃自動車の引取や中間処理
- 自動車中古部品卸売業：リユース部品を生産し国内や海外に販売
- 自動車整備業／钣金塗装業：自動車の車検や一般整備、钣金修理
- 中古自動車販売業：自社でメンテナンスした中古車を販売

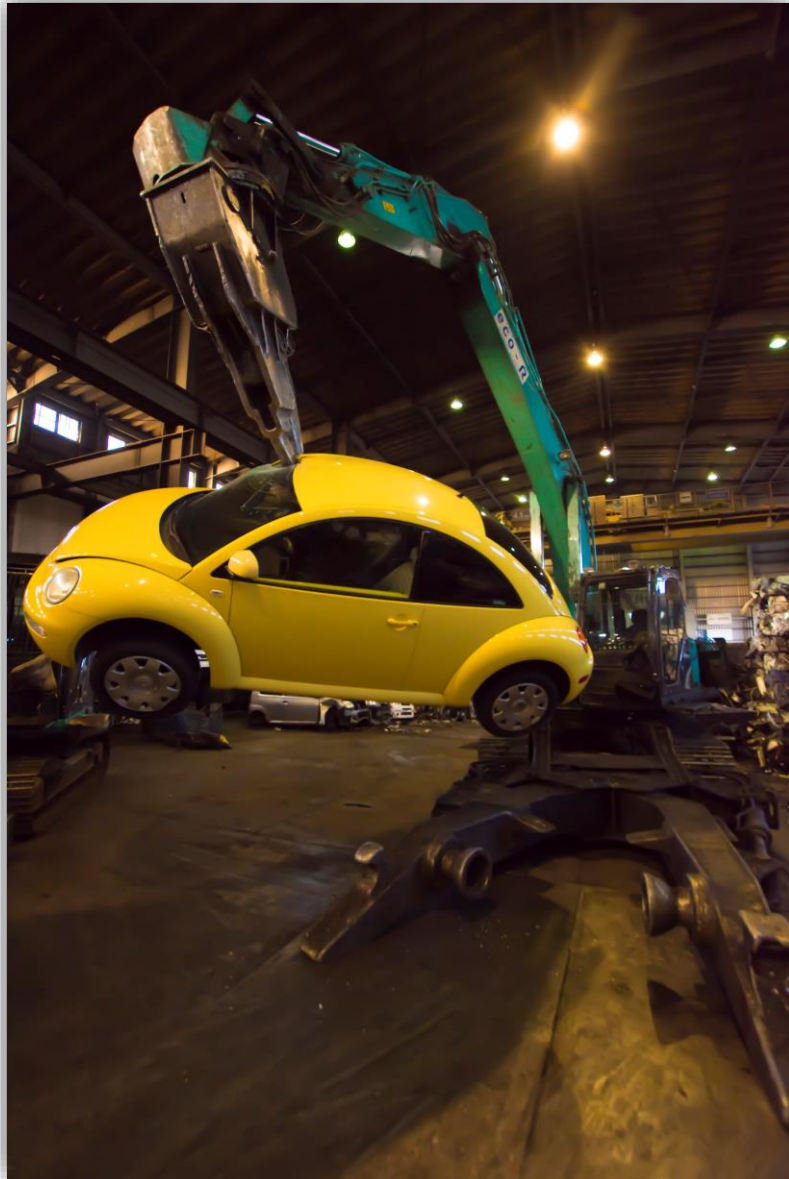
売上高 45億円(令和5年8月期/エコアールマレーシア含まず)

従業員数 141名(うち女性14名) ※パートスタッフ8名含む

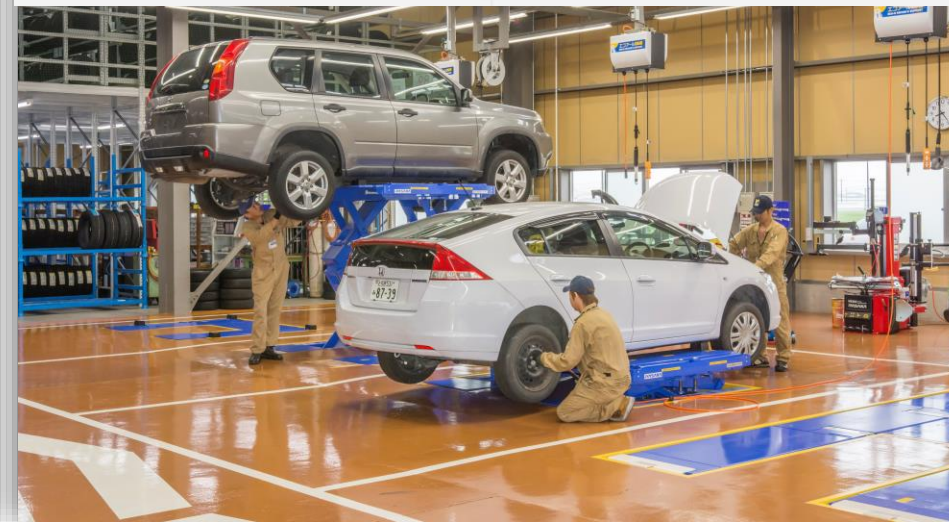
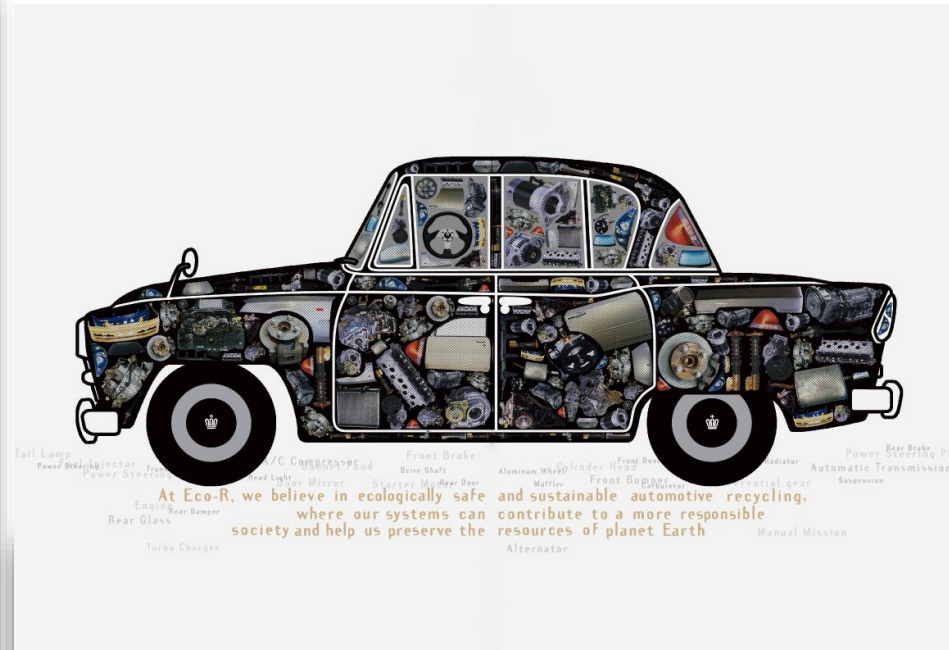
社員平均年齢 40歳



2.直近のリサイクル業概要



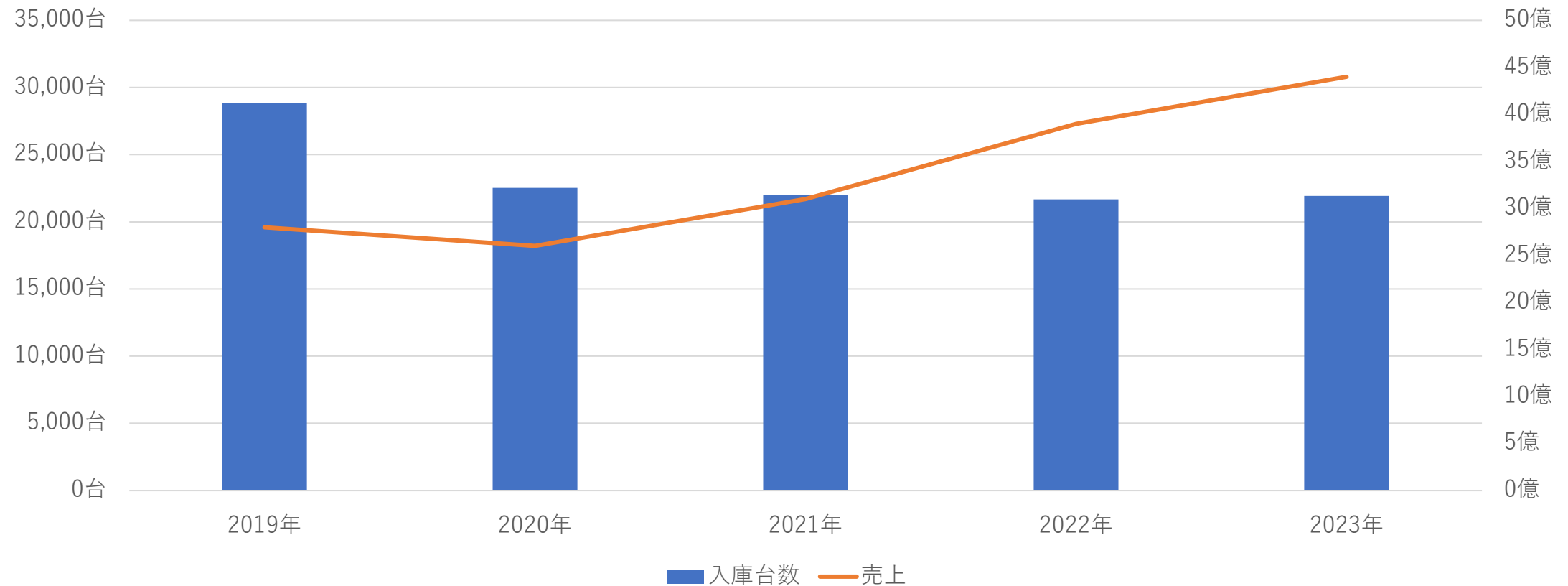
2023/12/13



eco-R Co.,Ltd All Rights Reserved.



在庫台数と売上金額（推移）

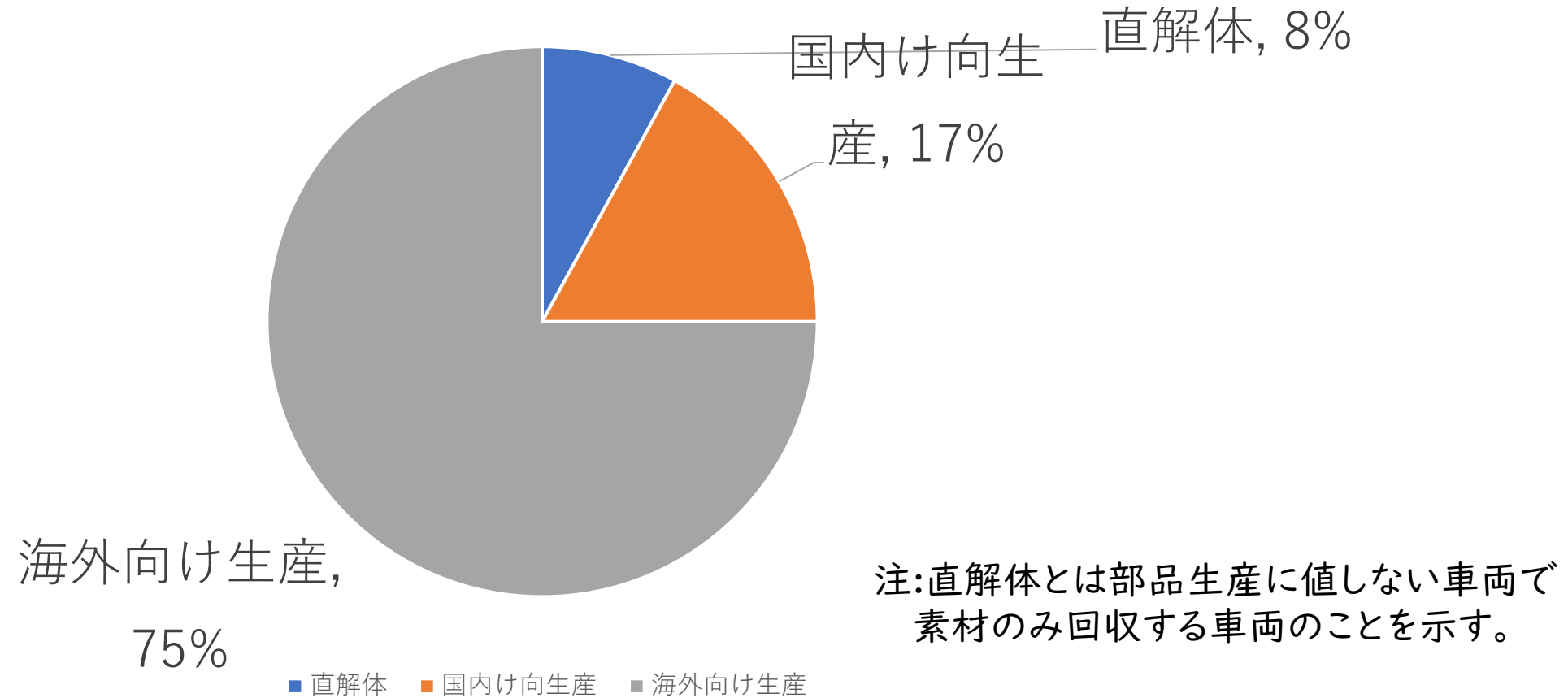


2009年(平成21年/42,127台の処理台数) 2022年(令和4年/20,039台)
リーマンショックの年、09年対比でも処理台数は約半減している。この年をピークに処理台数は徐々に下降路線を辿る。
処理台数の減少と共に徐々にマテリアルリサイクルの可能性を模索していくことになった。

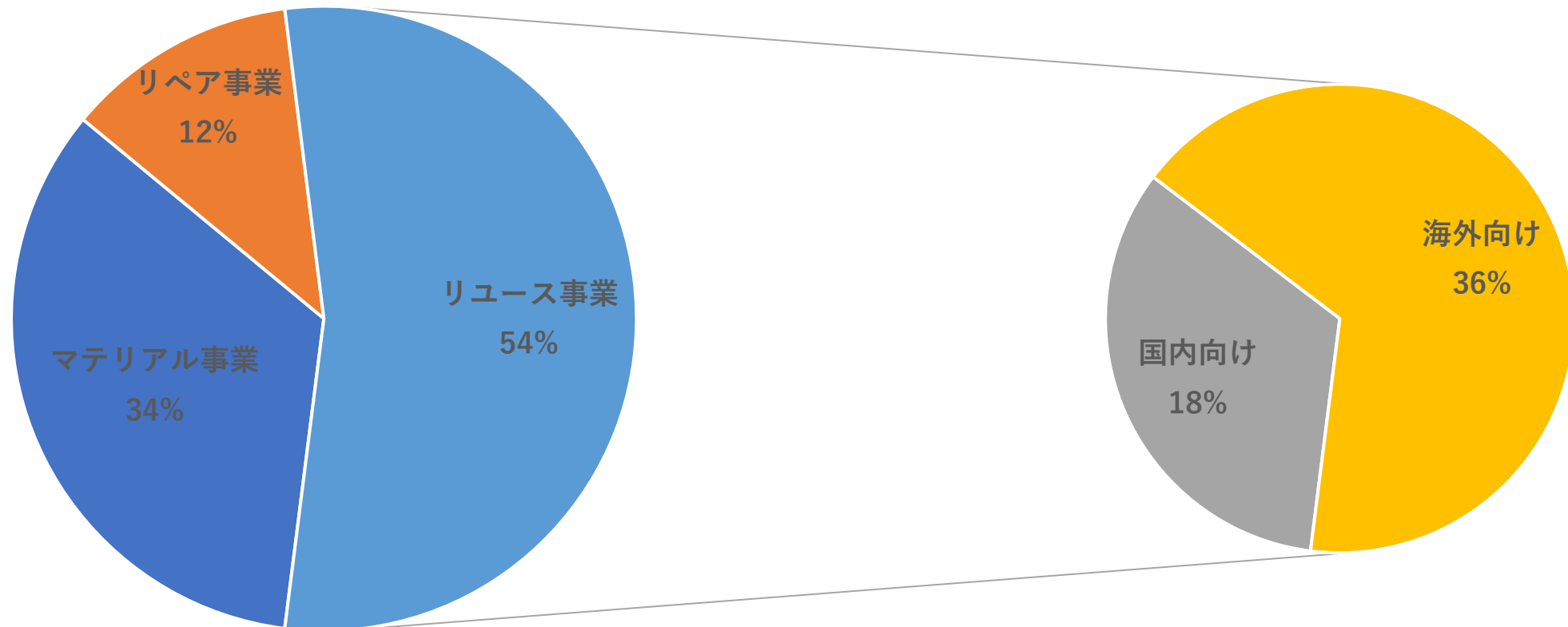
2023/12/13

eco-R Co.,Ltd All Rights Reserved.

処理の部門比率（直近）



売上構成(直近)



■ マテリアル事業 ■ リペア事業 ■ 国内向け ■ 海外向け

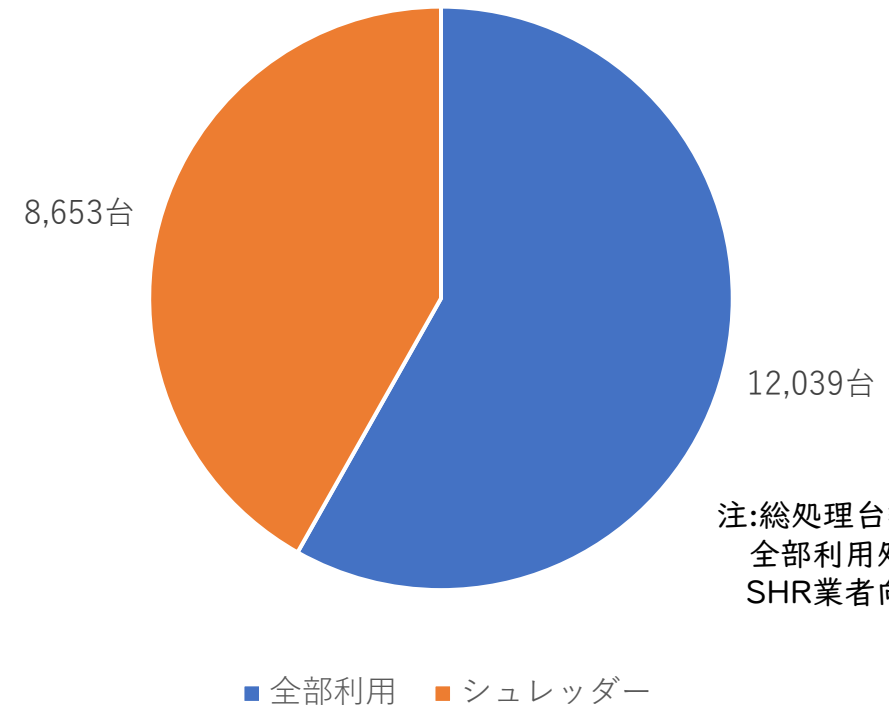
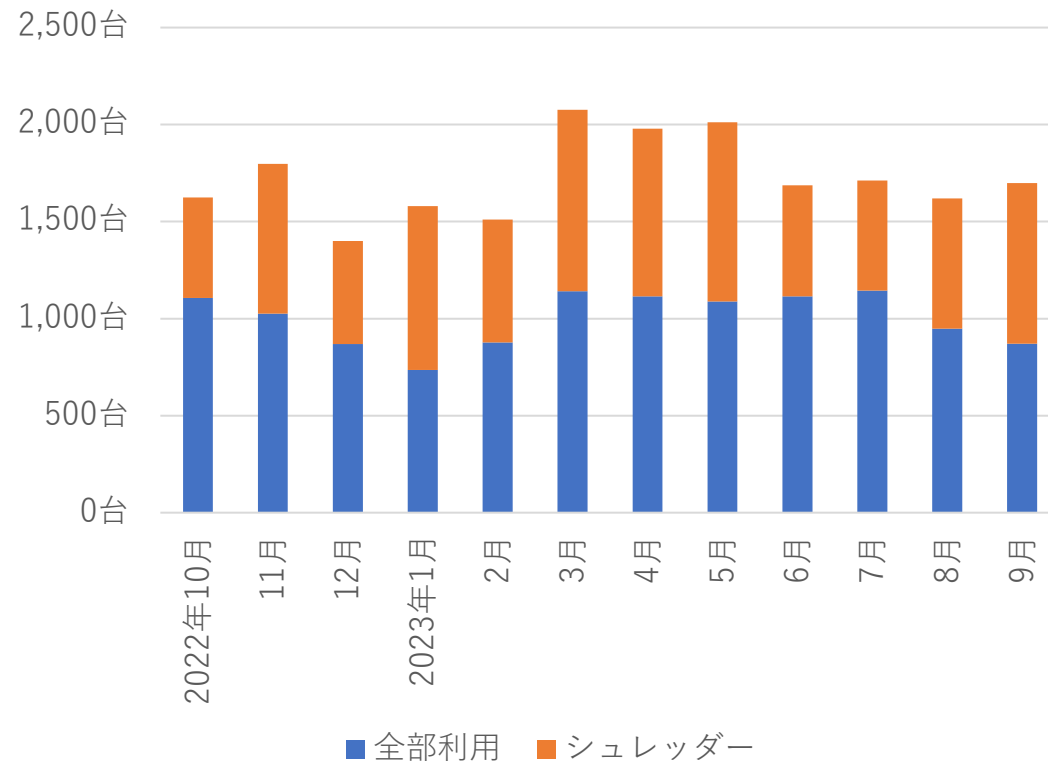
注:リペア事業とは当社DS館の売上を示しており、用品販売、中古車販売、車検、修理、钣金、保険収入等を示している。

3. 自動車解体による再生資源の積極的な活用の取組みと課題

直近の全部再資源化（全部利用）出荷実績

処理台数

処理構成



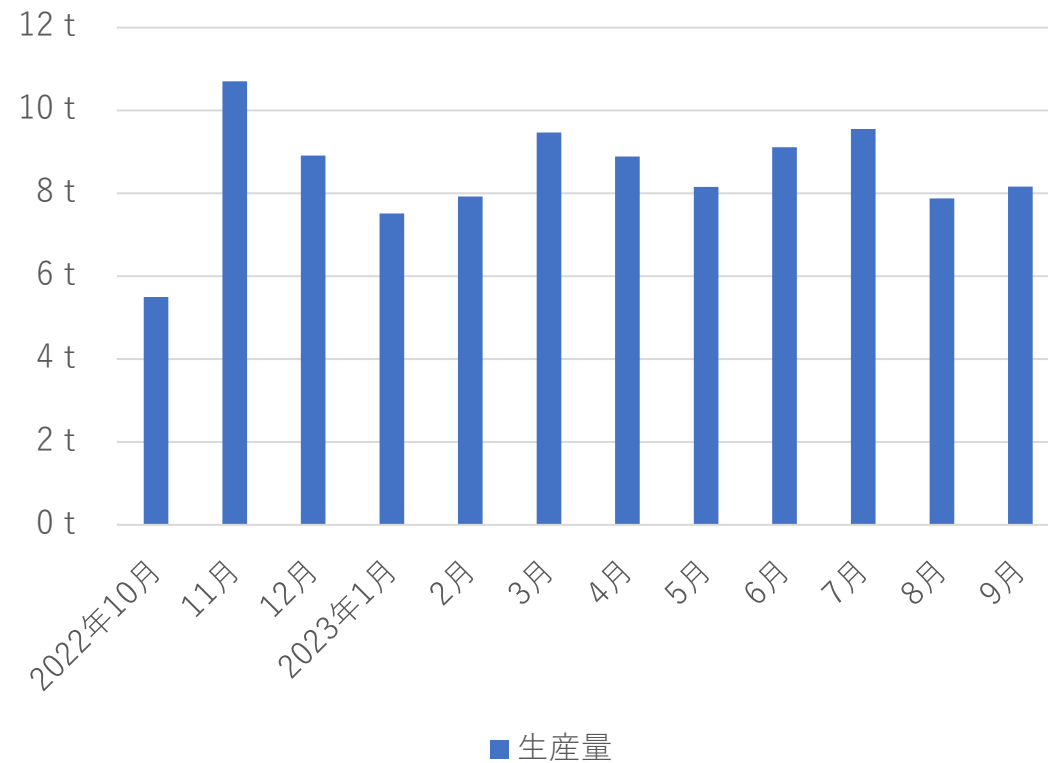
注:総処理台数 20,692台。
全部利用処理台数 58,2%
SHR業者向け台数 41,8%

全部利用処理台数を伸ばすための課題とは？

- 全部利用プレスを受け入れてくれる電炉メーカーが少ない
- 電炉のサイズによって受け入れられるプレスのサイズに限りがある
(例:東鐵宇都宮工場様1400×900×900)ため大型車両のプレスはカットする必要がある
- 各Aプレスは個体管理がもとめられるため管理が大変
- ASRと同様もしくはASRの処理料金より高く手数料を支払うべき
(環境負荷の低減につながるため)
- **各プレスのダスト引きの見える化を推進**していくこと

樹脂の再資源化

月間生産量



年間生産量



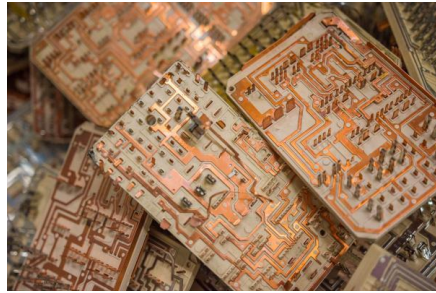


樹脂の再資源化



2015年5月より社会福祉法人三和会との協働活動にて、障がい者の方々が楽しくイキイキと働ける場を創設しました。その名は「スマイルワーク」です。

同会の理念である、「共に生きる」を基調とする、一貫した人権思想、「人は法の下に平等」の限りない実践をエコアールとしても重要なミッションとして捉え実践しています。



小さな自動車電子部品には希少金属やレアメタルを含まれるものが多くあります。それを障がい者の方たちの手作業により丁寧に1つひとつ回収したり、樹脂部品の異物除去をして頂いています。



「はたらく幸せ」を感じ、障がい者が地域で幸せな人生を送っていくという命題の実現、そして作業所の運営を通じて、障がいを持つ方が自立し楽しく有意義な日常生活を送れるような支援を通じ、安心して暮らせる地域づくりを目指して今後も取組んで参ります。



樹脂の再資源化を促進するためには？

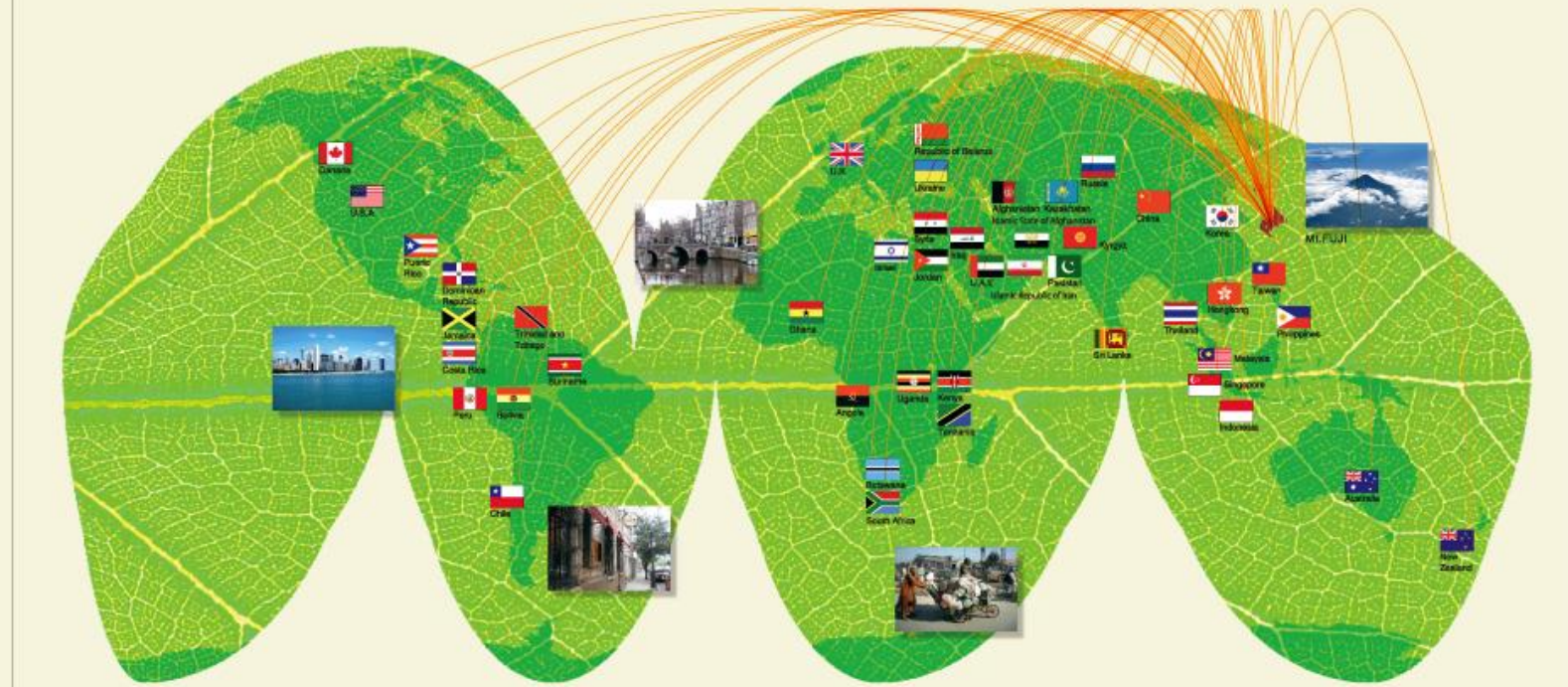
- 資源回収インセンティブ制度の円滑な運用
 - リサイクル樹脂の価値が向上していく仕掛けづくり
 - 二次解体の簡素化のためのツール開発、促進、普及
-
- I社ルート 品質↑手間↑価格↑量↓(単一樹脂の売却)
 - P社ルート 品質↓手間↓価格↓量↑(混合樹脂の売却)

自動車リサイクラーはどちらのルートにも売却出来る体制づくりが必要
複数のコンソーシアムが地域性や企業体によって様々つくられることが理想

4. 今後の目標

世界中がパートナーです

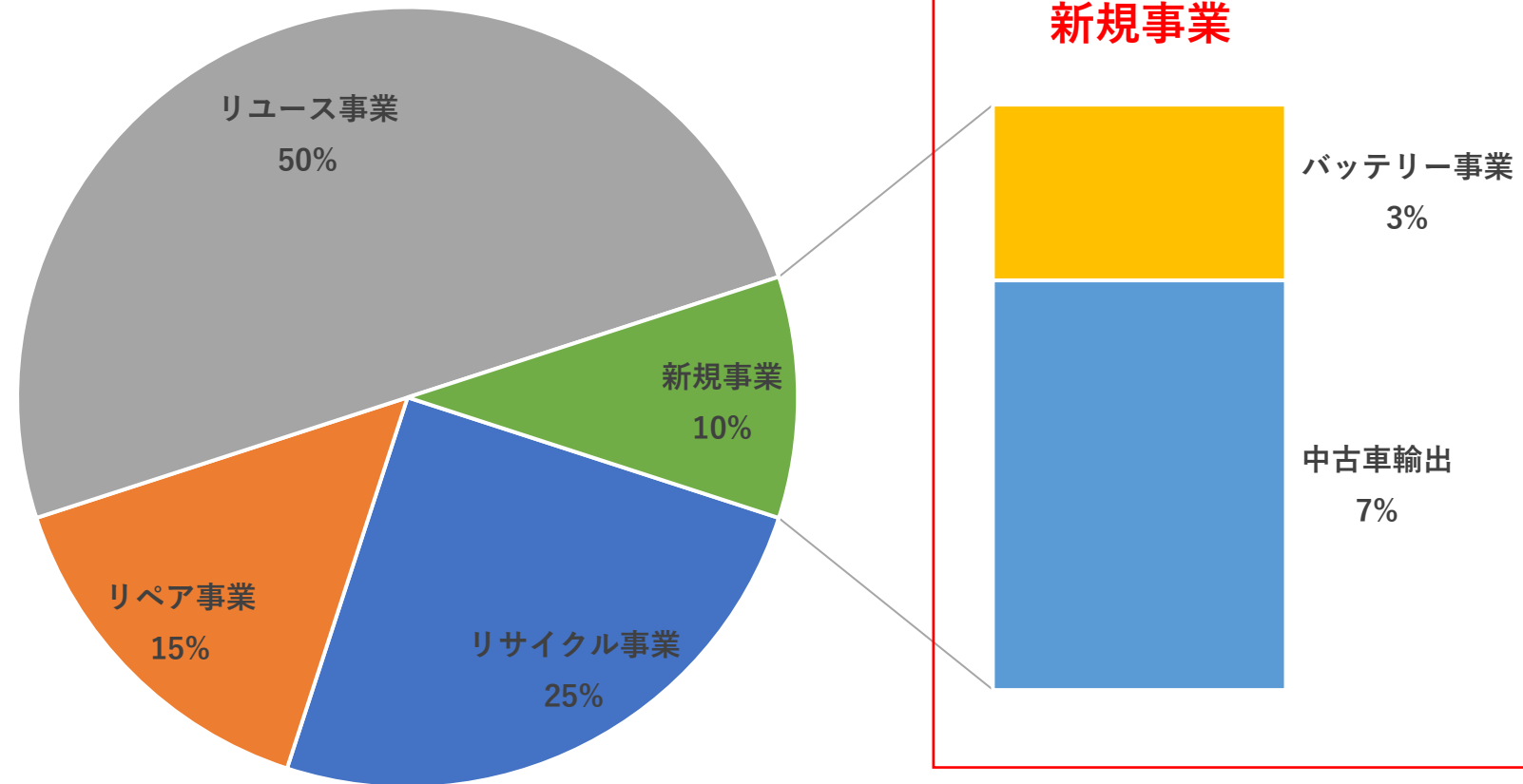
海外50カ国以上と直接貿易、幅広い需要に常時応えています。



大切な自然のシンボルである「葉っぱ」を地球に見立ててグード図法で表現。私たちの地球を愛するところを意味しています。



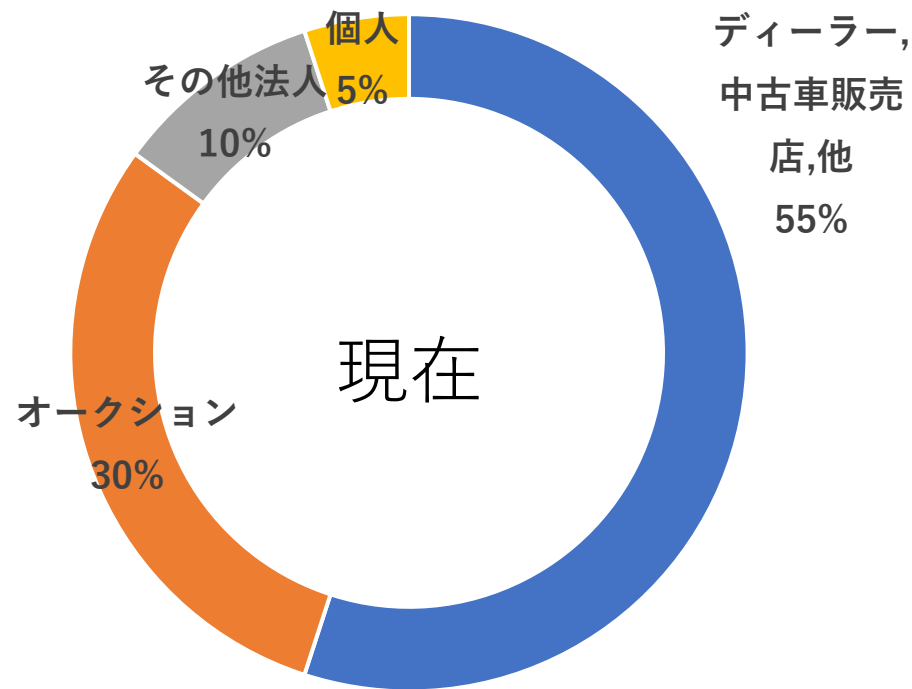
売上構成 (短期目標)



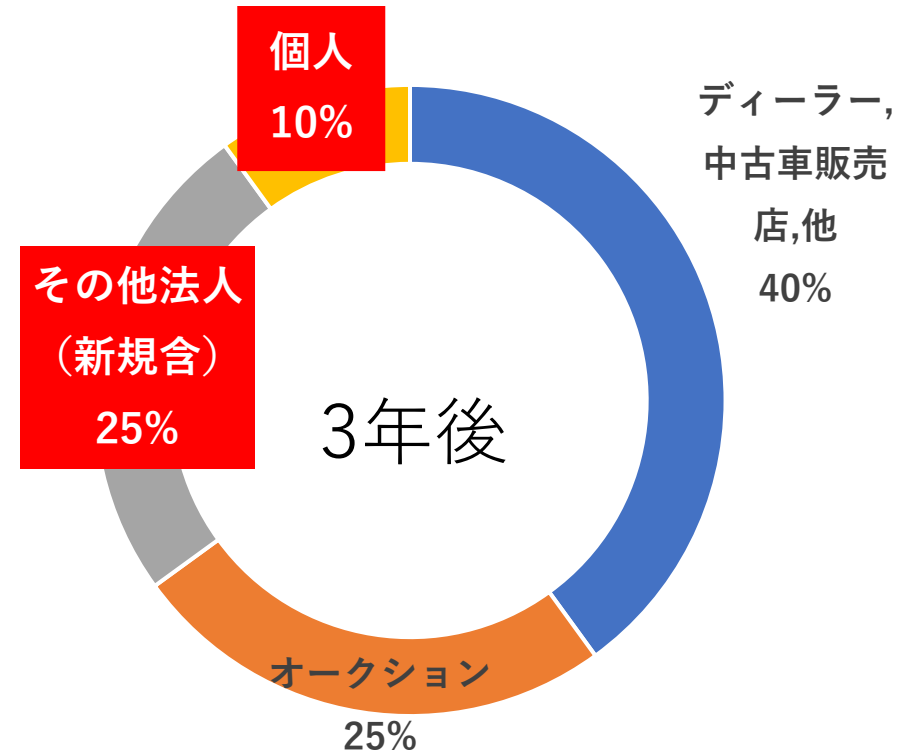
■ リサイクル事業 ■ リペア事業 ■ リユース事業 ■ バッテリー事業 ■ 中古車輸出

仕入構成（中期目標）

レッドオーシャンからの脱却を目指したい



■ ディーラー, 中古車販売店, 他 ■ オークション ■ その他法人 ■ 個人



■ ディーラー, 中古車販売店, 他 ■ オークション
■ その他法人 (新規含) ■ 個人

必要不可欠な4つの取組み

- ✓ 循環型社会発展のために、ELVにおける3Rの可能性を追求し、AIテクノロジーも活用した**より高度なレベル**で3Rを実践。
⇒ **持続可能な社会、サーキュラーエコノミー**に向けた対応
- ✓ リサイクルの高度化やCO2排出量の削減をするための設備投資、**廃棄物から新たな価値を生み出すための研究開発**。
⇒ **カーボンニュートラル**に向けた対応
- ✓ 契約とコンプライアスを遵守し続ける体制を構築。
⇒ **安心・安全取引**をご提供する共に、エシカル思考の強い企業との取引を拡大
- ✓ 5S+安全(Safety)をエコアール流にアレンジして展開している**6S活動のさらなる強化**。
⇒ 明るく清潔で風通しの良い企業文化の醸造は、高利益体質を生み出す土台となる

資源循環「三方よし」で未来を拓く

欧州委によるELV規則案にある「ELV由来のリサイクル材の積極採用(新車づくり)」を日本国内に置き換えてみると、現状では高いハードルがある。その原因の一つとして挙げたいのは、中古車バイヤーの台頭や円安を背景とした中古車輸出の活況により、国内市場価値の低い自動車が中古車として海外に流出していることである(2022年度で約129万台)。「国内での資源循環」をどのように確保するかは大きな課題と考えられ、今こそ関係主体が垣根を越えて取り組むことが必要である。

自動車リサイクラーが適正な競争環境で事業を継続するためには、現に法に基づくELV等の適正処理が確保されていることが大前提となる。そのためには、各地に点在する違法ヤード等の取り締まりを今まで以上に厳格化すること、自り法許可更新時には、「日本自動車リサイクル機構」が推進している「自動車リサイクル士」在職の要件化を提言したい。

CE、CN、SDGsなど社会的ニーズに積極的に応えていくためにも、コンプライアンスを遵守しているリサイクラーが適正な競争環境の下で一層の社会貢献が果たせるよう、既存の枠組みの改善、再生資源等の価値創造の促進も求められる。自動車メーカー、リサイクラー、業界団体および国・地方自治体等の関係主体が、共に連携し協働をすることを提言したい。

例1:自治体による地域の適正処理確保に向けた指導への、「自動車リサイクル士制度」からの積極的な協力(着手済み)

例2:資源の好循環スキームの構築[OEM→リース会社→エシカル企業→適格なりサイクラー→適正処理・高付加価値化→各素材メーカー→CO2削減・カーボンクレジット市場→OEMまたは大手企業・市場・ユーザーへ還元]など

これにより、CE、CN、SDGsへの貢献につながる、「資源の国内還流」、「適正なりサイクル業界・雇用の安定」、「排出権取引等による新たな付加価値」などが得られるのではないだろうか。

拝聴いただきありがとうございました



業界の課題を改善して明るい未来づくりを共に推進して参りましょう